

～高校生会議実行員会～



【活動目的】

- ・高校生の活動を運営するために必要な「目指す姿・目標」を言語化し、共有する。
- ・飛騨地域の高校生(横) + 世代を超えた飛騨の高校生(縦)の繋がりをつくる

【事業の概要】

- ・開催日時: 2024年8月20日
- ・参加者: 高校生15名・大学生9名
- ・会場: 高山市民文化会館
- ・地域の大人の方: 5名

①飛騨地域の若者の交流・繋がり場の創出

地域活性事業に関心のある高校生を参加できるものとし、同世代の同志として親睦を深めたり、共に活動する仲間として迎え入れたりする繋がり場を創る。

②飛騨で活躍する大人の方との意見交換

飛騨地域で活躍する大人の方5名のお話から、一度地元を出て感じる思いなどを知る、地元の価値・意味、地域の未来などを高校生と一緒に考えるパネルディスカッションの実施。



③課題の整理と目指す姿の可視化

地域課題などを把握した上で、飛騨の高校生として大切にしたいこと、今後も継続して高校生プロジェクトを運営する際に必要な「目指す姿・目標」を言語化し、共有する。



地域課題の分岐点/行動	Will やりたいこと	Can 出来ること	Need 求められていること
「将来の選択肢がない」 という思い込み	・バイトをして企業を知る ・職業体験の幅を増やす	・Uターンした人の話を聞く ・中学の内に選択肢があることを教える ・SNSの発信 ・学生目線の会社パンフレットの制作	周りの高校生に伝える
「地元での成功が難しい」 という思い込み	・散歩・食事をして新しい町のお店を知る ・SNS発信 ・高山市の歌を広める	SNSの発信で飛騨の情報を発信する	学生向けの情報の仕方
若者と大人の情報共有が できていない	対等に話す	大人と学生の間に立つ	・大人→情報を発信したい ・学生→情報を活用したい
働いている人と話す機会 が少ない	・女性だけの交流会 ・気軽に参加したい	・若者の繋がりが多い高校生の活用 ・大人と高校生の話し合いを開催する ・地域の方との交流の機会をつくる	・情報拡散 ・企画力
・「ない」と思っているから、 情報を調べようと思わない ・都会には(なら)「ある」とい うイメージ	・興味がある企業体験 ・稼働したい ・いいトコを見つけない	・SNSの使い方を大人に伝える ・同世代に伝えることができる ・自分たちで調べる ・まずは身近な人の仕事を知る	・いいところを探す ・プラスイメージを持たせる ・小学生のうちから知る ・仕事の体験をさせる

【参加して気づいたこと→その後のアクション】

今回の機会を通して、地域課題の分岐点を作っている要因の1つとして学生に情報が行き届いていないこと、それにより「飛騨には〇〇がない」というイメージ(思い込み)が作られていることを認識しました。学生に情報を届けるには、学生による学生のための情報発信の必要性を感じ、以下の取り組みを始めました。

●高校生に向けて企業情報の発信の開始



●高校生に向けて企業情報の発信



3月16日に開催されるMAP '06に地元企業のブースを作り、飛騨の中学生・高校生と飛騨の企業とを繋がる場の企画を開催します。